

北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の整備に関する有識者会議(第1回)

議事概要

令和4年9月30日(金) 15:00~17:00

於:中央合同庁舎3号館1階共用会議室

各委員からの主な意見

- これまでに実施した地質調査を分析しつつ、トンネル区間における当初の想定地質と実際に掘削した地質との比較をすることは、今後の予測精度を高める観点からも有益。
- 地質調査に関しては、道路等で先行して工事をしたことがあるエリア等であれば、そういった地質データも参考になる面はあるが、北海道新幹線のルートに関しては、他地域と比べてそういったデータの活用が限られる面もあるかもしれない。
- 垂直ボーリング調査は、数を増やしても完全に地質を判断するのは難しい面があり、また、水平ボーリング調査も断面径との関係では一定の限界はある。ボーリング数を増やすと時間とコストが増加するので、事前調査についても一定程度でバランスをとらざるを得ない面はある。
- 事業費に関して、これまで実施して発生してきている面と今後発生する可能性がある面との両面で、事業費に影響が生じる可能性があることに留意すべき。また、これまで実施してきたコスト低減策も含めて整理してみてもどうか。
- 今後のことについては、予測が困難な側面もある。事業費は、一定の振れ幅がありうることに留意しながら、議論を進めていくと良いのではないかと。
- 工程の現状について説明があったが、事業費と工程は関連する面もある。
- 国土交通省が令和2年3月30日に策定した「土木事業における地質・地盤リスクマネジメントのガイドライン」も参考にしてみてもどうか。